

ブドウ黒とう病の発芽前防除

1 技術の要約

ブドウ黒とう病の休眠期防除にデランフロアブルの 200 倍液又は石灰硫黄合剤の 10 倍液を発芽前に散布します。他の薬剤と比較して黒とう病の発生抑制期間が長く、安定した防除効果が期待できます。

2 技術の内容

ブドウ黒とう病（図 1）は特に欧州系品種で問題となる病害で、平成 29 年には「シャインマスカット」で発生しました。現行の県防除基準は、黒とう病の発生が少ない「巨峰」や「デラウェア」栽培を対象としているため、黒とう病の防除薬剤を普及に移してきませんでした。欧州系品種の栽培が増加するなか、本病害の被害を防ぐために重要である休眠期防除について、有効薬剤とその特性を明らかにするために試験を実施しました。

その結果、本病害の休眠期防除にデランフロアブルの 200 倍液か、石灰硫黄合剤の 10 倍液を発芽前に散布すると高い防除効果が得られることが明らかとなりました（図 2）。休眠期防除剤として既普及の他剤と比較して、デランフロアブルと石灰硫黄合剤はブドウ黒とう病の発生抑制期間が長く、安定した防除効果が期待できます。



図 1 「シャインマスカット」果房に発生したブドウ黒とう病

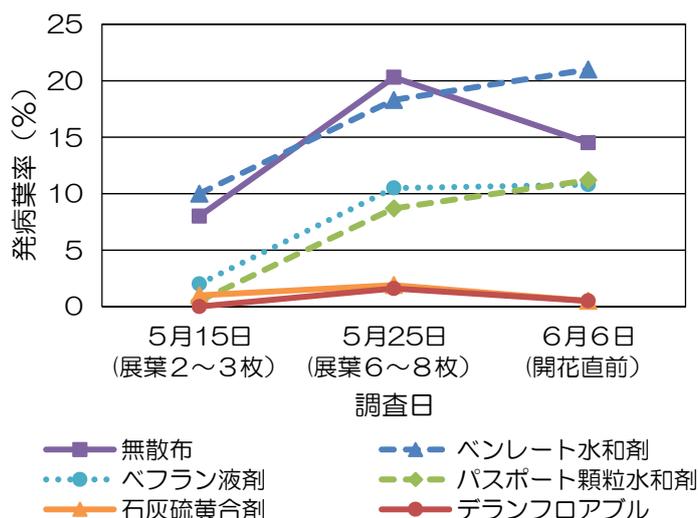


図 2 休眠期防除薬剤散布後のブドウ黒とう病発病葉率の推移（平成 30 年、果樹試験場）